

みんなで支える里山整備事業

事業の概要

○防災・減災のための森林整備

防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐 概ね5,700ha/5年間

○県民協働による里山整備

地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha/5年間

平成30年度事業計画

○防災・減災のための森林整備

1,290ha (389,397千円)

○県民協働による里山整備

150ha (53,357千円)

8月末までの取組状況

箇所決定(予算割当て)箇所

面積:精査中 (143,267千円)

箇所決定(予算割当て)箇所

面積:精査中 (24,320千円)

課題と対策など

○事業の実施に必要な、防災・減災のための森林整備については「里山整備方針」の作成、県民協働による里山整備については「里山整備利用地域」の認定が、それぞれ初年度であることから時間を要している。

○推進するため、取組事例の紹介や、関係機関の連携などにより地域に適合した方法で取組を進める。

里山整備方針作成事業

事業の概要

- 優先整備箇所への調査
- 里山整備方針の作成

《成果目標》

里山整備方針(図面)の作成
120箇所(旧市町村単位)／5年間
(森林整備の必要性が見える化)

平成30年度事業計画

- 里山整備方針の作成**
(120箇所/5年間)

8月末までの取組状況

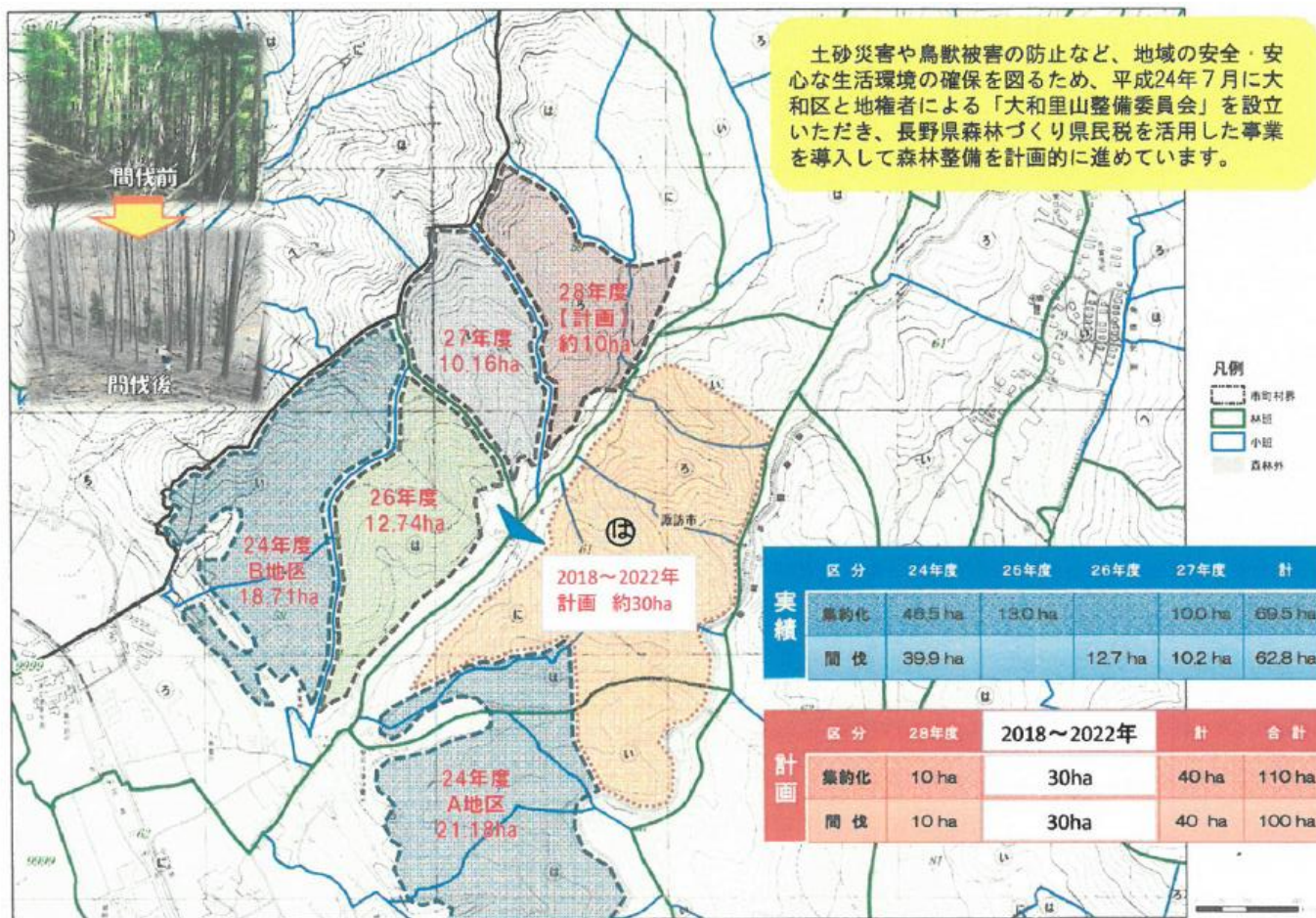
- ・航空レーザ測量に基づく優先整備箇所のデータを全市町村に提供
- ・56市町村が里山整備方針を作成中
2市町で作成済み

課題と対策など

- 「みんなで支える里山整備事業」の効果的な実施につなげるための調整が必要。
- 関係者が協力して方針作成に取り組むことで、方針から成果までの見える化を図る。

里山整備方針作成事業

里山整備方針(図面)のイメージ



県単河畔林整備事業

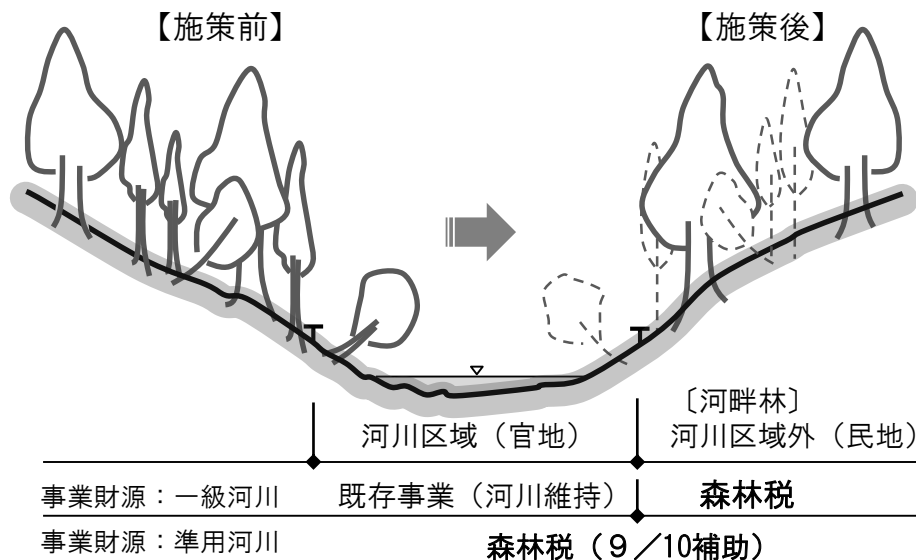
事業の概要

洪水で流れ出る木を減らし被害を防止・軽減する

- ・一級河川の河畔林での除間伐
- ・市町村が行う準用河川の河川区域及び河畔林での除間伐への補助

《成果目標》

河畔林整備120箇所／5年間



平成30年度事業計画

- 一級河川での整備(県) 9箇所
- 準用河川での整備(市町村) 15箇所

8月末までの取組状況

- 一級河川での見込 16箇所 (うち2箇所完了)
- 準用河川での見込 21箇所

課題と対策など

- 本事業は予防的な防災・減災対策であり、効果の把握に工夫が必要である。

県単河畔林整備事業

実施箇所の考え方

事業は、具体的な選定項目により防災・減災効果の高い箇所で実施します。

〔具体的な選定項目〕

- 1 流出危険木の量と地形条件
 - ・ 細い立木、傾いた木が多い
 - ・ 河川から近く傾斜が大きい
- 2 被害発生の可能性の高さ
 - ・ 橋梁やボックス等、河川断面が狭い箇所がある
 - ・ 狭い箇所が宅地等に近い
- 3 被害の大きさ
 - ・ 沿川が宅地化している
 - ・ 沿川に災害時要配慮者施設や公共施設等がある
- 4 その他
 - ・ 熊等の出没抑制に資する
 - ・ 景観向上に資する

平成30年度事業の実施状況

すずがさわがわ
一級河川鈴ヶ沢川 木曽郡大滝村

Before



After



事業の概要

地域住民による里山の
整備・利活用を促進

○里山整備利用地域活動推進事業

・現地調査、地域活動、計画作成等に対する支援

○里山資源利活用推進事業

・資機材の導入、遊歩道の整備等に対する支援

《成果目標》

里山整備利用地域の認定 約150地域／5年間

平成30年度事業計画

○里山整備利用地域の認定

50地域

8月末までの取組状況

- ・8月末時点で新たに4地域を認定済み（このほか5地域で認定手続き中）
- ・このほかに約70地域で認定に向けた合意形成等の活動を実施中

課題と対策など

- 認定予定地域における事業構想等、地域の合意形成に時間を要している。
→ 先行地域の事例紹介等を通し、計画作成や合意形成を支援する。
- まだ具体的な取組がない地域における地域活動の芽出しへの支援が必要。

第3期森林づくり森林税 里山整備利用地域での地域主体の森林づくり

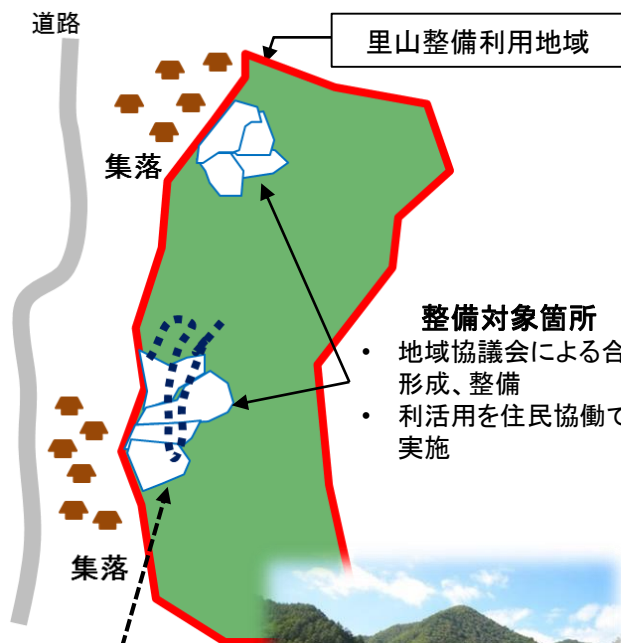
課題

山村地域における過疎化や高齢化等が急速に進行し、所有者の特定が困難な森林の増大など森林管理の空洞化も増していることから、地域住民らによる自立的・持続的な森林管理を構築していくことが求められている。

第3期森林づくり県民税の取組

長野県ふるさとの森林づくりによる「里山整備利用地域」の認定地域において、住民協働による里山の整備を促進するとともに、木材利用をはじめとする多面的な森林資源の利活用を進めることで、森林と地域との関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築する。

【概念図】



地域内では歩道整備や植樹等、間伐以外の施業も対象



【認定地域で実施する事業】

事業名	事業主体	補助率	事業内容	H30目標	進捗状況
県民協働による里山の整備・利用事業	協議会	10/10 3/4	認定地域で行われる地域活動及び薪割り機等の資機材の導入	地域認定 50地域	9月〇日時点で認定箇所〇地域(70箇所を超える地域で認定に向けた勝枝堂中)
里山整備利用地域リーダー育成事業	県	-	里山を管理・利用するコーディネーターや技術指導を行う人材を育成	里山整備 150ha	
みんなで支える里山整備事業	森林組合、NPO、協議会等	9/10	間伐や植栽等の多様な里山の整備		
地域で進める里山集約化事業	協議会、自治会、森林組合等	定額	森林所有者の同意取得等の条件整備		

(注)協議会…里山整備利用推進協議会

地域で進める里山集約化事業

事業の概要

- 森林所有者の同意取得
- 境界の明確化

《成果目標》

防災・減災のための里山整備

概ね5,700ha／5年間

地域住民による里山の整備・利活用

概ね1,500ha／5年間

平成30年度事業計画

○**集約化等面積** 900ha

8月末までの取組状況

- ・約500haの集約作業を実施中
- ・新たな里山整備利用地域の設定や里山整備方針の作成支援と並行し、集約化の実施に向けて支援中

課題と対策など

- 「防災・減災」及び「里山の整備・利活用」の考え方にに基づき、地域の里山整備の構想を新たに練っているため、事業地の具体化に時間を要している。
- 取組み事例の照会や、関係機関の連携などにより、地域に適合した方法で取組を進める。

事業の概要

○「子どもの居場所」木質空間整備事業

- ・空間の木造・木質化 25箇所/5年間
- ・木のおもちゃ等の設置 150箇所/5年間

○木工体験活動支援事業

- ・木工体験活動への支援 →→→ 木工コンクール応募者 概ね5,500人程度(H34)

○県産材公共サイン等設置

概ね250枚程度/5年間

平成30年度事業計画

○「子どもの居場所」木造・木質化 5箇所

木のおもちゃ・調度品設置 30箇所

○木工コンクールの開催・木工体験活動支援

○県産材公共サインの作成

8月末までの取組状況

・「信州木の香る製品集」を作成し、県産材製のおもちゃ・調度品に係る情報を発信

・木造・木質化4箇所、おもちゃ等の設置46箇所を採択済み（9/26まで二次募集実施中）

・木工コンクールの作品募集中（～10月初旬）

・各地域で木工体験活動を支援中（計26件）

・県産材公共サインの設置方針等について関係部局と連携して検討中

課題と対策など

○県産材製品情報や導入のための支援施策について、より幅広い層への周知が必要

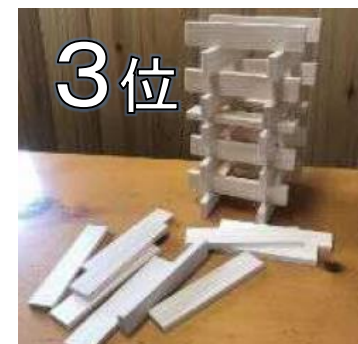
○事業実施後の成果について、波及効果まで含めた分析や検証が必要

○木工品生産者等に対する事業成果のフィードバック（ニーズの見える化）

「子どもの居場所」木質空間整備事業における
「信州木の香る製品集」人気ランキング トップ5（採用施設数）

順位	施設数	製品番号	製品名
1位	12	玩-4	ころころころりん
2位	8	玩-7	ゴロゴロ機関車ボールドウィン号
3位	7	玩-21	木曾ヒノキ 積み木(1)
4位タイ	5	玩-5	おでかけ♪どこでもハンドル
4位タイ	5	玩-19	テイクジーブロック・ 県産材入特別セット

<平成30年度 一次募集終了時点>



事業の概要

《成果目標》

薪流通の仕組み構築モデル
概ね10箇所／5年間

《期待される効果》

- ・里山の未利用材の利用促進
- ・エネルギーの地消地産を通じた里山の持続的かつ自立的な維持管理

平成30年度事業計画

○コンパクトな薪流通の仕組みづくりのモデル的な取り組みに対する支援
2件程度

8月末までの取組状況

○5件の応募に対し3件を採択済み
「森林資源、人的資源を活用した山村再生」
「原木の伐採担い手づくり、森林からの生産に取り組む」
「地域の広葉樹資源を薪として利用拡大」

課題と対策など

- 地域内外に対するPRとそれによる波及効果の発揮
- モデルとしての類型化や汎用化が可能か、汎用可能な手法をどう共有していくか
- 補助事業終了後の事業の継続性(経済性)の確保

松くい虫被害木利活用事業

事業の概要

被害木の伐倒・チップ化

木質バイオマス燃料として資源化

《成果目標》

松くい虫被害全市町村(51市町村)
で事業実施 / 5年間

《期待される効果》

- ・被害木の倒伏による危険回避
- ・被害木の搬出による被害森林の再生

平成30年度事業計画

○取り組みを行う市町村 **10** 市町村

8月末までの取組状況

- ・8月に担当者会議を実施し事業内容を周知
- ・市町村の要望調査を行い、9月中旬に事業実施個所を決定

課題と対策など

- 地域主体の被害木の利活用方法、継続のための仕組みを市町村が検討
- 未被害林から単木被害木を見つけて搬出するような小規模な取組も支援したい

里山整備利用地域リーダー育成事業

事業の概要

地域の森林を適正かつ持続的に管理していく体制構築のため、地域活動のコーディネートや技術指導等を行う人材、地域の里山の維持管理を担う人材を育成

《成果目標》 ○地域リーダーの育成 概ね150人／5年間

○森林の整備利用に携わる人材の育成 概ね4,500人

平成30年度事業計画

○地域リーダー人材 30人

○維持管理人材 900人

- ・リーダー対象者への研修会
- ・地域で行う安全講習会への講師派遣

8月末までの取組状況

- ・里山整備利用地域における活動を推進するための研修会を開催準備中
(8月末現在 新規認定4地域)

課題と対策など

○各地域で里山整備利用地域の認定に向けて検討中のため、事業の具体化までに時間を要している。

事業の概要

- 《成果目標》
- 森林セラピー等地域コーディネーター育成 10人／5年間
セラピーガイド育成 200人／5年間
 - 森林セラピー基地の整備 全10箇所／5年間

平成30年度事業計画

- 森林セラピー基地等協議会開催
- 森林セラピー基地整備 4箇所

8月末までの取組状況

- ・森林セラピー基地等協議会開催(9月)による人材育成メニューの検討
- ・シニア大学講座を活用したガイド育成講座
- ・森林セラピーガイドスキルアップ研修(6月)
- ・森林セラピー基地整備 3箇所決定済み

課題と対策など

- 地域コーディネーター人材の具体化による人材育成メニューの検討
- 新規のセラピーガイドの育成

森林の教育利用の推進

事業の概要

○学校林等利活用促進事業

・長期間未整備のため利用困難な学校林の整備 60箇所程度/5年間

○自然保育活動フィールド等整備事業

・信州やまほいく認定園のフィールド整備 25園程度/5年間

○自然教育野外教育の推進事業

・モデル的に自然教育プログラムを実施する学校 30校程度/5年間

平成30年度事業計画

- 学校林の整備 16校
- やまほいく認定園のフィールド整備 8園
- 自然教育野外教育推進会議の設置 4回

8月末までの取組状況

【学校林】

- ・4校について事業実施見込み
- ・12校の相談に対応中

【やまほいく】

- ・11園から事業計画の提出があり、採択審査中
(→ 9/18付で9園の事業を採択)

【自然教育野外教育の推進】

- ・2回の推進会議を実施し、プログラムを検討中

課題と対策など

○フィールド整備の内容が自然教育・自然保育活動の充実に寄与するものかどうか。

(緊急性、優先性の判断)

○多彩なフィールドがある中、事業要件についての丁寧な説明が必要。

まちなかの緑地整備事業

事業の概要

《成果目標》

県民協働による市街地の緑地整備
概ね25箇所程度／5年間

《期待される効果》

- ・まちなかに木々を身近に感じられる緑地が創出されることによる都市の魅力向上
- ・活動・交流の場としての利用による地域の元気づくり推進、緑化に関する人材の育成

平成30年度事業計画

○緑地整備

4箇所

8月末までの取組状況

実施箇所を**3箇所**決定(松本市内)

- * 平成30年度は、31年度に松本市で開催する全国都市緑化フェアに向け、市民参加による緑地整備の機運醸成を図るため、松本市で4箇所実施

課題と対策など

- 初年度の成果等を検証し、事業の見える化・継続性・他地域への波及に取り組む。
 - ・事業実施内容をホームページ掲載等により広報する。
 - ・事業者アンケート調査し、制度の運用改善を検討する。

13 観光地における景観形成のための森林等の整備

事業の概要

○観光地の景観整備(県単道路橋梁維持修繕費)

- ・「街路樹剪定士※」有資格者による街路樹等の整備 概ね延べ40km程度/5年間
※景観や樹木の健全性に配慮した剪定技術を認定する資格

○観光地等魅力向上森林景観整備事業

- ・観光地における地域の景観に合致した間伐等 概ね85ha程度/5年間

平成30年度事業計画

- 街路樹整備 延べ 10km
- 地域の景観に合致した間伐等 17ha

8月末までの取組状況

- ・県内観光地周辺の街路樹延べ10km(6箇所)において整備を実施中
- ・地域の景観に合致した間伐等を11箇所を決定済(面積は精査中)

課題と対策など

- 森林税を活用して街路樹整備を実施している旨を工事看板でPRしているが、街路樹1本ごとに移動しながら実施しているため、看板が通行人の目に触れにくい。
- 観光地等魅力向上森林景観整備事業は各地域の要望が大きいため、優先順位等の考え方を明確にする必要がある。

事業の概要

《成果目標》

全ての市町村で地域固有の課題の
解決の取組が行われること

《期待される効果》

- ・身近な課題解決への取組による森林への関心の向上
- ・身近な里山などの森林整備や木材利用が図られる。

平成30年度事業計画

○市町村が行う身近な課題解決のための
森林づくりの取組

実施市町村数 **77市町村**

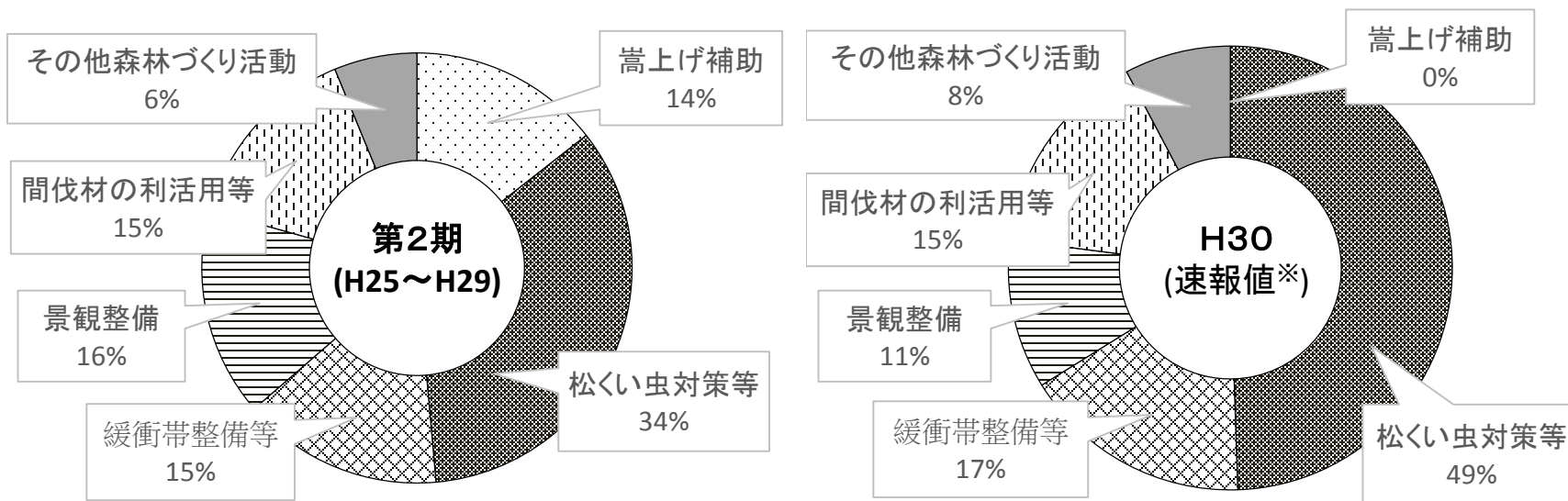
8月末までの取組状況

- ・市町村自らによる検証・評価の仕組みを新たに規定し、配分額を決定
- ・交付決定済みの市町村はホームページや広報掲載等の方法で事業内容を公表または公表準備中

課題と対策など

- 市町村自らによるPDCAを確実に回すこと。
- 実施内容や検証・評価の結果の公表にあたっては、各市町村の住民に幅広く認知されるような方法を検討。

事業内容内訳



※H30年度は9月20日までに交付決定の報告があったもの

- 第2期まで交付対象事業としていた市町村独自嵩上げ補助を交付対象から除外
- 事業の実施内容や実施後の検証・評価について市町村が説明責任を負うことを新たに規定

市町村による公表

○交付対象事業の公表方法

(単位：市町村数)

ホームページ	市町村広報	窓口閲覧	その他	未定
31	15	16	1	17

※ その他： ケーブルテレビの字幕放送

※ 重複有り

ホームページでの
公表の一例

× 泰阜村 - 平成30年度 森林づくり推進支援金事業の実施...
vill.yasuoka.nagano.jp

やす おか むら 泰阜村 文字サイズ 小 中 大 検索

HOME 泰阜村の紹介 観光・特産品 福祉情報 I・Uターン 暮らしの情報 行政情報

平成30年度 森林づくり推進支援金事業の実施について

泰阜村では今年度、長野県の「森林づくり推進金」の交付を受け、景観整備事業を実施します。

事業費926,000円のうち支援金は570,000円で、グリーンレンジャー隊により村内道路に隣接する森林伐採を行います。

詳細は[こちら](#)からご覧ください。

本ウェブサイトの全ての著作権は、泰阜村役場に帰属致します。
サイト内の文章、画像（写真・イラスト）の全てについて、転用・複製・商利用を堅くお断りいたします。

HOME ページの先頭へ

事業の概要

森林税に関わる
 ○広報・普及啓発
 ○モニターアンケート
 ○県民会議等の開催

《成果目標》

**森林税の用途の認知度
30%**

平成30年度事業計画

○森林税の用途の認知度 **30%**

8月末までの取組状況

- ・リーフレットや新聞広告等によりPR実施中
- ・森林税のロゴマーク及びPRキャラクターを作成
- ・モニターアンケートは1月に実施予定
- ・県民会議、地域会議を従来より幅広い分野の委員で構成

課題と対策など

- 個別事業の具体的な成果をPRすることで、森林税を身近に感じられるような広報に努める。
- 10月を広報強調月間とし、市町村広報等様々な媒体での情報発信を図る。

森林税ロゴマーク



森林税PRキャラクター



実施済み

- 森林税リーフレットの作成・配布 30,000部
(主な配布先: 県内コンビニ、市町村等)
- 各種イベントでのPR (ほっとパル暮らしと健康の博覧会、木曾の手仕事市 等)
- 新聞版広報長野県でPR (9/25)

今後

- ラジオスポットでPR (9/3~9/7)
- ラジオにてPR(FM、AM 12~1月予定)
- 各種イベントでPR
- SNSにてPR(森林税動画)

事業の概要

《成果目標》

**企業・団体等（里親）と地域（里子）
との協定締結****25件／5年間**

《期待される効果》

- ・森林整備や都市との交流を通じた地域活性化

平成30年度事業計画

○企業等との契約件数 **5件**

8月末までの取組状況

- ・新規契約1件
- ・新規契約に向けた現地調査を5企業等と実施
- ・新規開拓のための中京圏企業訪問の実施（2企業）

課題と対策など

- 累積契約件数が増えるに従って、新規契約のマッチングが困難になっている。
⇒ 里山整備利用地域制度の活用等を含めて検討